

第22回甲府市中心市街地活性化協議会議事録

1. 開催日時 平成30年5月10日（木）午後4時～午後5時15分
2. 開催場所 甲府商工会議所 401会議室
3. 委員出席者 14名（本人出席13名、代理出席1名、別添名簿参照）
4. 事務局出席者 甲府商工会議所 事務局長 越石 寛
LLCまちづくり甲府 リーダー・業務担当 志村 修
〃 企画担当 渡辺 一博
〃 総務担当 井上 将志
5. 甲府市出席者 甲府市企画部企画総室地域振興課 課長 依田 幸二
〃 係長 土屋 修吾
6. 議 事 1) 甲府市中心市街地活性化基本計画に対する検証について
2) その他
7. 議事内容等

開会の後、進藤会長は、「甲府市中心市街地活性化基本計画に対する検証について甲府市より説明いただき、委員各位の意見を伺う」旨のあいさつを述べ、その後、当会規約第12条により議長に就任した。

1) 甲府市中心市街地活性化基本計画に対する検証について

議長は、甲府市中心市街地活性化基本計画に対する検証のため、計画の概要およびその進捗状況等について甲府市に対し説明を求めた。この求めに応じ、甲府市地域振興課依田課長、土屋係長が説明を行った。

説明の概要は以下のとおり。

1. 本協議会開催の趣旨について

中心市街地の活性化に関する法律及びそれに伴う基本方針に基づき、中心市街地活性化基本計画の期間中、毎年、設定した数値目標の確認及び取組みの進捗状況等について検証することとなっている。昨年4月から本年3月までの1年間の進捗状況等を検証し、本協議会の意見を付し国に報告するため、本協議会を開催していただいた。

2. 本計画の概要、進捗状況等について

配付資料に基づき、本計画の基本方針、活性化の目標、活性化に向けた主な事業及び効果と指標状況について説明がされた。

甲府市からの説明を受けた後、議長が議場に意見を求めたところ、委員から以下の意見等が出された。

高野委員代理：歩行者通行量調査の結果が、甲府中央まちづくり(株)があるエリアが特に厳しい状況であることは認識している。2年前の話だが、関西のある都市で行政の補助金をいただきながら映画館を中心に活性化したプロジェクトがあった。現在、甲府市中心市街地には映画館1館のみで、多くの人々が郊外の映画館に観に行っている。甲府市として、映画館を中心とした活性化の取り組みをしてはどうだろうか。

依田課長：現在中心市街地にはシアターセントラル Be 館しかなく、甲府の文化という点で捉えると、旧甲宝シネマ、旧武蔵野シネマ5について、以前ライブハウス等として活かさないかと考えたが、関係者からは集客は見込めないとの意見があった。現在のところ甲府市が補助して取り組むというスキームは考えていない。

進藤議長：私も同様な意見を持っている。公的な施設として、映画館や青少年を対象としたアミューズメント施設が中心街にできれば人の流れは間違いなく変わると思っている。
個人的には、長野県岡谷市に映画を見に行っているが、そこは市営駐車場と映画館がタイアップし5時間駐車場無料という施設である。映画2本観ても駐車料を払わなくて済む。この駐車場は、近くにショッピングセンターもあるが、いつ行っても駐車場は満車、映画館も入場者が多い。このように、映画館の運営は民間に任せ、サポートできる市の支援策があると良いと思う。

加々美委員：関連する事業の中で、甲府駅南口駅前広場の活用とあるが、使用する際に利用料がかかり、山梨県へ使用料を払いイベントを行わなければならない。地元で協議会を立上げ活用しようとしているが、有料ということで難しさがあると感じ困っている。そのようなものに甲府市で補助するようなことを考えているか。

依田課長：甲府駅南口広場については、協議会を立ち上げることも聞いているが、甲府北口よっちゃばれ広場も基本的には使用料がかかっている。甲府市としては、人的支援を検討する必要がある。要綱上使用料がかかることになっていると思うが、使用料の減免措置などを検討すべきであると思っている。甲府市商工課で小グループ自主的取組支援事業補助金等もあるので支援は可能である。

丹沢委員：人口が減少しているなので、歩行者通行量の減少は当然と思う。オリオンイ

ースト付近が伸びている要因は、オリオンイースト街をデザインして若者が来るようになったこと。甲府駅前については、県外観光客が食事をする等街を訪れていることが要因。甲州夢小路は、外国人観光客などが多く訪れるようになってきていることが要因である。市内、県内の人々が来る街づくりを進めなければならない。それには、現在計画されている甲府城南側エリアの計画を早く進めなければならない。計画している小江戸の街並みを進めることにより、県外・海外からも訪れる人が増え、賑わいのあるエリアとなる。甲府市は、計画実施を5年後、10年後と言わず、予算を一気に入れ込み集中して取り組むことが重要である。映画館については、旧武蔵野シネマ5も映画やイベントを行うようになるようだが、駐車場対策が合わせて必要と思う。

浦部委員：甲府城南側エリアの小江戸の街並み整備について、甲州夢小路の焼き直しとならないように、コンセプトを明確にしてまちづくりを進めてもらいたい。お客様に同じように映らないようにしてもらいたい。また、ココリの空きテナント部分について、イオンのテナントリーシングは引き続き取り組んでもらっているのか。

依田課長：テナントリーシングについては、地域連携協定も結んでいるので引き続き取り組んでもらっている。

長坂委員：5月の連休、観光客が多く、閉店するのがもったいないくらい夜遅くまで賑わっていた。これからは飲食中心に街づくりをしていかなければならない。甲府城南側エリアを開発して観光スポットとするのは結構だが、日帰り観光ではなく、甲府盆地の夜景を見る仕掛けや、武田神社の裏を花畑にするなど滞在時間を延ばし、宿泊する観光形態を期待している。

進藤議長：日曜日は休んでいる飲食店が多い。店が開いていればお客様はもっと来店すると思う。

丸茂委員：ペルメ桜町の理事をしている。最近では夜間の駐車場が満車状態。桜町四丁目商店街協同組合では、駐車場を購入し、柳町通りと桜町通りと両方から入出庫が可能である。各商店は来店客が減少したと言っているが、駐車場は夕方から夜間にかけて駐車台数が増えている。若者が遅い時間に中心部へ入ってきているのではないか。各店の経営については土地・建物が自身の所有であるため、経営者も比較的悠然としている。街の会合でも逼迫した話はあまり出ない。中心市街地活性化基本計画5年の区切りが迫っているが、現在の目標達成状況を詳しく説明願いたい。

依田課長：現状、中心市街地活性化基本計画の記載事業に位置付けられたものにインセンティブが与えられる。それが目標値に達しなかったことで、補助金を返還するという事はない。2期目の状況は、空き店舗数については167件となり目標値を達成している。歩行者通行量については13万2千人

となっており、目標値に5万人ほど足りていない。居住人口については上昇しており、目標値にあと500人程度となっている。最近では、国においても目標が未達成でも良いのかという意見も出ており、昨年から中心市街地活性化基本計画が実際に機能しているかどうか会計検査院からの問い合わせが各自治体に来ていることも聞いている。達成率が低い自治体については今後何らかの対応があることも想定される。

今のところ甲府市については、空き店舗数については目標値に達しており、歩行者通行量、居住人口についても目標に向かっていく。

立地適正化計画も立ち上がってきて、今後、計画同士の連動はどうかということも国が注視しているという情報もある。

計画期間が残り2年あるので一生懸命取り組んでいきたい。

丸茂委員：努力の跡が見えていると思う。国との連携をより強めながら進めてもらいたい。

また、人口減少を如何に止めるかというポイントは、人口の集積の度合いが高いほど人口が伸びている。トップは東京であり、山梨県は46番目。甲府の場合は中心市街地活性化計画がスタートしコンパクトシティ計画に熱を入れ人口減少を止めるために各方面で努力しているが、さらに集積地域を盛り上げていく必要がある。山梨県では甲府市くらいしかないが、国も再度コンパクトシティの推進を進めており甲府市もさらに推進してもらいたい。

金丸委員：合同会社まちづくり甲府の代表社員としてこの状況に対しては責任も感じている。合同会社まちづくり甲府は財政面でも人的な面でも思うようにいかないのが実態である。先ほども甲府市からイベント広場活用に人的な支援を、ということが言われたが、まちづくり甲府の人的体制も3名で余裕がない。今後甲府駅北口のエリアマネジメント広告事業を進めていく予定である。甲府市に対しても人的にも支援いただき、商工会議所としても務めていきたい。

岸川委員：本日は様々な貴重なご意見をいただき、甲府市として感謝申し上げる。甲府駅北口のエリアマネジメント広告事業については、市道の占用許可について本来厳格に運用していかなければならないが、まちづくり甲府のように公的な目的でまちづくりの取り組みを進めており、街に再投資するという形では良いのではないかとということで、市道の占用許可を緩め、その許可対象者を本来は公式な競争でやらなければならないという意見もあるが、まちづくり甲府が取り組み、自主財源をもって地域に還元してもらおうと、本年度取組めるよう目途を付けようと考えている。

加々美委員からも話があった甲府駅南口広場の件だが、使用料が高額だからそこに市の補助を入れるということは難しいが、多分営利を目的とした使用に対しては使用料を取られるので、地域のためであれば使用料の減免規定があると思う。甲府市としても山梨県と交渉したい。まちづくり甲府が主催者となり地域の方と協力して行うのなら問題ないと思う。

甲府駅南側エリアについては、予算をできる限り投入して、新しいコンセ

プトでやりたいと思っている。想定外の森友問題もあり、税務署跡地を購入してそこから進めるといところが進まない状況にあり遅れることになるが、その間コンセプト作り等に取り組む。官だけの発想ではなく、いろいろな方のアイデアを聞いていきたいと思っている。

5月の連休に観光客が多かったという話は嬉しいこと。日曜日に閉めている店舗が多いが頑張っ取り組んでもらいたい。武田神社の裏に花畑をとの提案があったが、文化財が出来てきたらすぐに取りやめるという条件のもと進めることができる。来年にはガイド施設ができるので花畑プロジェクトやはちみつプロジェクトなどの案があり、うまくできるようにしたい。山梨県は人口集積の度合いが少ないというのは甲府市の影響。ただ中心市街地の活性化で様々な事業に取り組むのは良いが、甲府のまちづくりで良くないのは、中心市街地の活性化についてアクセルを踏みながら、一方で郊外の開発を許すようなことをしている。中心市街地活性化を支援しながら、人口が減るので住む場所を作らなければいけない どこに建てるかという郊外に、というようにアクセルとブレーキを同時に踏んでいる状況では中心市街地活性化の効果が表れてこない。本気でコンパクトシティに取り組もうと思うなら、郊外の住宅地開発をこれ以上しないということも宣言しないとイケない。しかし、これが実際にできるかという、方針は都甲府市マスタープランで打ち出したが、具体的に現状の緩い基準をいつ止めるかというところを出ていない。立地適正化計画をこの2年で作る間に方向を打ち出そうと考えている。リニア駅周辺はどうするんだといった厳しい意見も出ると思うので、調整しつつ、やはり集積があるところに人も住んでもらうという形をとりたいたいと思っている。人口減少を抑制するためには、集積を高める必要があるので、甲府駅周辺に都市機能を集積させて周りに居住を張るというように、外へ行く動きを抑制しながら必要な投資を、特に甲府城周辺を重点的に取り組んでいきたい。

そうすると今までで取り組んできた商店街支援を今まで通りできるかと言ったら難しくなるかもしれないがこれは協議会の場を使い、ご理解いただきながら進めていきたい。

進藤議長：岸川副市長から総括的にご意見をいただいた。

長坂委員：歩行者通行量調査の件だが、最近は飲食店が多くなっており、夜間の歩行者通行量が多くなっているのでは、調査時間など調査方法など再検討した方より正確な数字が出るのではないかと。

進藤議長：中心市街地活性化基本計画もあと残り2年。是非当初の目的が達成できるよう引き続きご協力をいただきたい。

議長は、その他に意見等がないことを確認し議事を終了、事務局が閉会を宣した。

第22回甲府市中心市街地活性化協議会 出席状況

役職名	委員名	所属名・役職名	5/10
会長	進 藤 中	甲府商工会議所 副会頭	○
副会長	長 坂 善 雄	甲府商店街連盟 会長	○
〃	浦 部 保 仁	甲府市大型店協議会 会長	○
〃	浅 川 文 明	(株)山梨中央銀行 常務取締役	○
委 員	丸 茂 紀 彦	甲府商工会議所 相談役	○
〃	高 野 洋志雄	甲府中央まちづくり(株) 代表取締役	代
〃	岸 川 仁 和	甲府市 副市長	○
〃	金 丸 康 信	合同会社まちづくり甲府 代表社員 甲府商工会議所 職務執行者	○
〃	丹 沢 良 治	NPO法人街づくり文化フォーラム 理事長	○
〃	木 造 雅 隆	甲府中央商店街新生協議会 会長	○
〃	雨 宮 慶	朝日通り商店街(協) 代表理事	×
〃	渡 邊 泰 夫	ココリ管理組合 理事長	○
〃	雨 宮 正 英	山梨交通(株) 代表取締役	×
〃	加々美 富 明	春日地区自治会連合会 会長	○
〃	清 水 明	春日地区自治会連合会 副会長	×
〃	牛 奥 久 代	甲府市女性団体連絡協議会 会長	○
〃	森 澤 昌 子	子育て支援団体ハッピーキッズ 代表	○
オブザーバー	柏 木 隆 伸	山梨県 商業振興金融課 課長	○
〃	大 代 正 史	甲府警察署 交通課 課長	×

○=出席、×欠席、代=代理出席